

第3回 Terraced Landscapes 国際会議 にみる棚田・段畑景観をとりまく課題

真田 純子¹

¹正会員 博士（工学） 東京工業大学環境社会理工学院
（〒152-8550 東京都目黒区大岡山2-12-1-W9-95） E-mail:sanada.j.aa@m.titech.ac.jp

本研究は、第3回terraced landscape国際会議について考察したものである。第1回、第2回を振り返り、イタリア国内での国際会議開始までの取り組みについて振り返った。さらに、会議の概要およびテーマの概要について記述し、terraced landscapeはその形態的保存だけでなく、農業という利用のシステムを最終目的にしていること、その農業は持続可能なものであることを前提としていることを考察した。

キーワード：棚田，段畑，空石積み，農業

1. はじめに

本稿は2016年10月開催の第3回Terraced Landscape国際会議について考察したものである。Terraced landscapeとは、棚田や段畑などの階段状の農地のことである。本稿では、棚田、団畑の総称としてterraced landscapeの単語を用いる。

terraced landscape国際会議は、2010年に中国雲南省で第1回の開催があり、第2回はペルーのクスコで行われた。本稿では、2016年イタリア開催までの経緯としてこれらの開催についても触れる。

2. これまでの経緯

(1)Terraced Landscapes 国際会議

a)第1回会議（中国）

第1回は、2010年11月11日から15日に、中国の雲南省でShi Junchao教授の呼びかけで開催された。5日間のうち2日間はエクスカッションであった。16か国から90人を超える専門家と、150人を超える中国の専門家が集まったと言われている¹⁾。ユネスコ、FAO（国連食糧農業機構）、ラムサール条約および中国の複数の省の後援を得ている²⁾。会議は、全体会議のほか、5つのテーマでのパネルディスカッション、および農業者パネルディスカッションが行われた。

5つのテーマは下記のとおりである³⁾。

- 1.世界のterraced landscapeでの農業の歴史、文化、現状
- 2.地方における伝統と環境の関係に配慮した観光振興

3.農業生態系とterraced landscape

4.世界農業遺産

5.terraced landscapeの管理に向けた政策、法律および規則
また、会議の最後には、the International Alliance for Terraced Landscapes (ITLA) を発足することを決めた。

b)第2回会議（ペルー）

第2回会議は、ペルーのクスコにて、2014年5月14日から22日にかけて開催された。14日はレセプションと翌日からのエクスカッション準備、15日から17日が4地方、6コースでエクスカッションを実施、19日から22日の4日間で実際の会議であった。研究者のみならず、農業者や実践者を対象としたものであった。そのため、会議と並行して農業者フォーラム、映像祭、terraced landscapeでの作物の展示、ITLAの会合などのネットワークづくりなどのイベントが行われた。総勢で30以上の国から200人が参加したと言われている⁴⁾。

JICAの協賛のほか、ペルーの農業省、環境省および開催地自治体などが後援している。

会議で用意されていたテーマは下記の5つであった⁵⁾。

- 1.生態系サービスと気候変動に連動した土と水の管理
- 2.食品と栄養のための農業の生物多様性と機能、安全
- 3.地域社会とその文化と土地のマネジメント
- 4.伝統的および現代の技術と道具
- 5.国のおよび国際政策と地方文化

(2)ALPTERプロジェクト

イタリア国内では、terraced landscape国際会議の開催よ

り以前、2003年から2004年にかけて、ALPTEPプロジェクトという研究会が発足している。

2008年に出された成果報告書⁹⁾に記載されたプロジェクトの説明によると、ベネト州、リグーリア州、ロンバルディア州の州政府がその地の大学からの応援を受けて立ち上げた研究会であるとのことで、風景を人間活動の結果として、維持するに値する土地の資源として見直すという、European Landscape Convention (Carta di Firenze)に記述された要請がもとになっている。

テラス状の斜面を研究対象にする意味については、それが、生産物、斜面の安定のための工作物の作り方や維持の方法、ローカルエネルギーバランスなどの、人と土地との統合の仕方をわかりやすい形で表しているためだとしている。

ALPTEPプロジェクトは風景が放棄されることによって生産地が消えること、土砂災害のリスクが高まること、生物多様性が失われること、および豊かな文化的遺産がなくなることなどの問題に立ち向かうという目的をもってはじめられた。研究を進めていくうちに、科学的にも社会経済的にも興味深いことが明らかになり、研究やプロジェクトは建築学、地質学、観光、農業、地理学、都市計画や政策といった分野にまたがって発展したという。

2008年にその成果として“terraced landscapes of the Alps”のAtlas版とManual版を2冊出版している。Atlas版は調査結果を中心にしたもので、Manual版は進行中のものも含め、プロジェクトを記したものである。

このように、イタリア国内ではterraced landscapeに関する研究やプロジェクトは、すでに分野や人材ともに広がりを持って行われており、蓄積もあったといえる。

3. 第3回terraced landscape国際会議の概要

本章では、2016年10月にイタリアで開催の第3回terraced landscape国際会議について、その概要と準備状況等についてまとめ、考察する。

(1)開催プログラム

a)スケジュール

日程は2016年10月5日から17日の13日間であるが、初日は夕方からレセプションのみであり、実質12日間の開催である。そのうち5日間がイタリア各地のフィールドに分かれて実施される。

それまでの2回はフィールドでの実施はエクスカージョンのみであったが、イタリア開催ではフィールドがテーマと結びついており、参加者の発表はそれぞれのフィ

表-1 会議スケジュール

日	時間	内容	
10/06	18:00	受付開始	Venezia
	19:00	開会式	
10/07	9:30	主催者挨拶	
	10:00-19:00	全体セッション	
10/8 -10/12		10か所に分かれてテーマ別セッション およびエクスカージョン ※場所により、往復それぞれ半日から1日 が移動にあてられる。	
10/13	9:00	主催者挨拶	Padova
	9:30-13:30	全体セッション	
	14:30-17:30	テーマ別セッションの報告	
	18:00-19:00	5グループに分かれてのワークショップ	
10/14	9:00-12:30	テーマ別ワークショップ	Padova
	12:00-13:00	映像賞の授賞式	
	14:00-18:00	プロジェクト展示会	
	18:00-20:00	今後の活動についての提案	
10/15	9:00-10:30	Terraced landscapeについてのイタリアのマニフェスト	
	10:30-12:00	Terraced landscapeの作物の展示会、閉会式	

ールドでのみ行われる。

b)参加の方法

参加するには事前の申し込みが必要であるが、参加期間としては全プログラムへの参加か、13日からの3日間で開催されるファイナルセッションへの参加の2通りがある。全プログラムへの参加は通常500€（早期申し込みで400€）、ファイナルセッションへの参加は通常150€（早期申し込みで100€）である。なお、全プログラムへの参加では、各フィールドへの移動費、宿泊費、フィールド滞在中の食費も込みである。

参加にあたって、研究発表、ビデオコンテスト、経験発表の3つの発表タイプが用意されている。それぞれの詳細は下記のとおりである。

【研究発表】

一般参加者の研究発表の時間は、テーマ別セッションの中でのみ用意されている。したがって、研究発表をするには、全日程への参加を申し込み、フィールド（テーマ）を選んで申し込む必要がある。大会前にはアブストラクトのみを提出し、12月31日までに論文を提出する。ベストアブストラクトに選ばれると、国際的な科学雑誌に論文が掲載されることになる。

【ビデオコンテスト】

5分から30分のterraced landscapeに関するビデオを募集している。この目的は、すでにあるものやこれから作成されるものを収集することであるとしている。

ビデオの作成はプロ・アマを問わない。また、コンテストへの参加者は、登録する必要はあるが、実際に出席

する必要はない。

【経験発表】

Terraced landscapeに関するポスター、プロジェクト、企画、本、職人技、広く知らしめたい・味見してほしい作物、インターシップや協働、クラウドファンディング、価値づけすべき場所などが応募できる。これに応募する人はファイナルセッションのみでも参加可能である。

(2)開催および協力団体

主催はITLA、ヴェネト州、パドヴァ大学、ベネチア建築大学で、欧州評議会、イコモスの後援を受けている。また、スポンサーには、Valpolicellaワイン保証組合、Conegliano Valdobbiadeneワイン保証組合が名を連ねている。これらの組合は、産地呼称制度に基づくワインの格付けを管理する組合で、この2つの産地はそれぞれベネト州、フリウリ州に位置し、ブドウ畑が段畑になっており、後者はユネスコの世界遺産登録を目指している。

(3)テーマ

用意されたテーマとフィールドは、図-1のとおりである。これまでの2回に比べテーマが増えている。先述したようにテーマとフィールドが結びついており、イタリア各地で開催することが先に決め、それに合わせてテーマを設定した側面もある。一方で、すでに研究や活動の蓄積によりネットワークが出来上がっていたため、10もの場所が選ばれたともいえるだろう。それぞれの場所とテーマの概要は論文募集のwebページに記載されている。これらの文章は長くはないが、イタリアの農村景観に携わる専門家らがterraced landscapeの保全、継承のためにどのような問題意識を持っているのかを知るうえで役に立

つといえる。場所とテーマの説明の要約を記載する。

1.エコロジーと生物多様性(Costiera Triestina)

〔場所〕

Costiera Triestinaはボーラという冷たい季節風から守りながら農業を行ってきて、風景としても自然としても特徴がある。しかしながら何年も放棄が続き、石積みの壁や段そのものが区別できないような状況になり、再森林化がおこっていた。近年、トリエステのWWFや農家が地中海性エコシステムの北限の生物多様性を守るのに役に立つだろうと、この環境や風景を守り活用するという取り組みを進めている場所である。

〔テーマ〕

Terraced landscapeは、集中的に農業を行う場所と放棄地あるいは自然地との境にある。近年、ますます農地の生物多様性、動物や植物のための生態系の回廊、人間と自然が互いに助け合い持続可能な関係を保っていたシナントロプスの生息環境について話題になることが増えている。Terraced landscapeは、世界で、どのような価値を提示できるのか？生態系の価値に実際どのようなリスクがあるのか？どのような農業の形態や、空石積みの隙間が、生物多様性にとって良好なのか？本セッションのテーマは、トリエステのWWFから提示された。

2.芸術性と文化の伝達(Topolò-Dordolla)

〔場所〕

この2つのアルプスの村は、放棄への対策として似たようなことを行っている。この数十年、人間が濃密に住み手入れしてきた風景は、野生に飲み込まれようとしている。イタリアとスロベニアの国境近くの村々は、一様に空石積みのterraced landscapeが、農民の文化とともに消

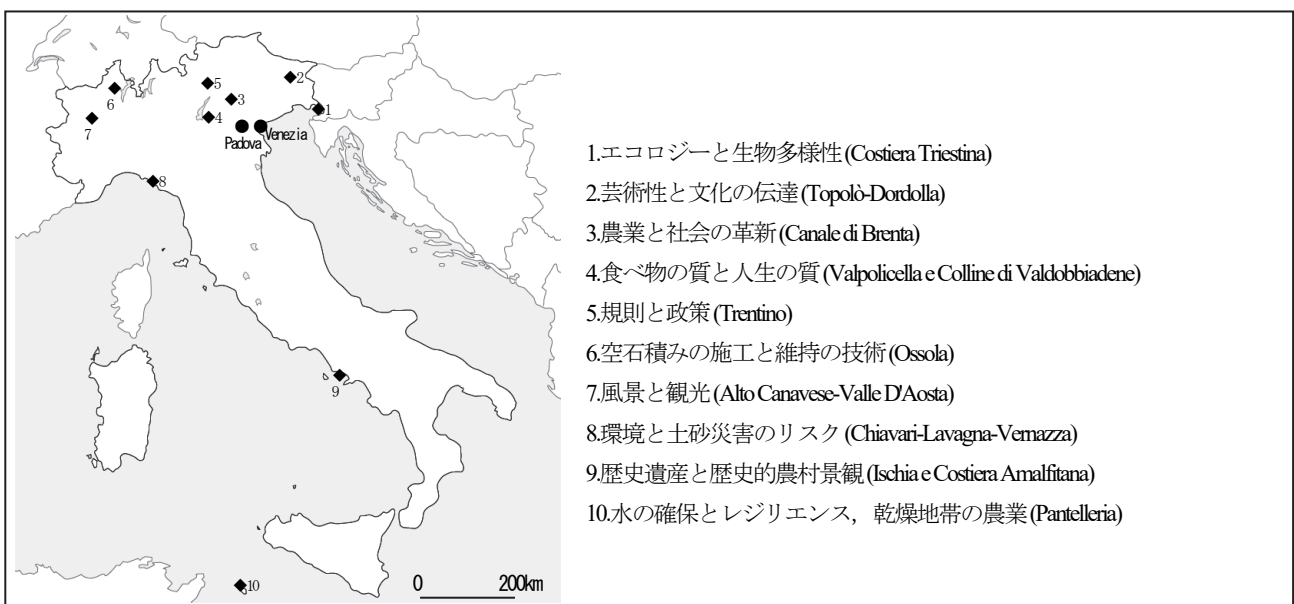


図-1 フィールドとテーマ

えようとしている。地域の特徴的な風景である空石積みのTerraced landscapeを再発見することは、大きな魅力になり、場所を取り戻す方法となる。

[テーマ]

農村の発展は、何も農業という側面だけではなく、多面的な要素も含んでいる。地域の遺産の復元、環境や風景の価値づけ、アイデンティティの探求、暮らしの質という点での生き方の確立などである。Terraced landscapeは、歴史や美しさ、構築の知恵などを今によく伝えている。

どのように語り伝えれば、空石積みの多面的機能を伝えられるか？どのような芸術的なプロジェクトならterraced landscapeのいろいろな価値を表現し、具現化できるだろうか？

3. 農業と社会の革新 (Canale di Brenta)

[場所]

Canale di Brentaは石灰岩と苦灰岩の上にはっきりと作られたterraced landscapeが特徴である。17世紀に持ち込まれたタバコを今でも栽培しているが、19世紀後半から徐々に耕作放棄されてきている。

この十年ほどは、terraced landscapeをマッピングしたり構築の技術や水の確保、伝統的な農業について研究したりなどの取り組みをしている。また、Canale di Brentaの風景観測室とともに、耕作放棄に立ち向かうため、持続可能な農業や革新的な農業、新しいチャンス、経済モデルと生き方について取り組んでいる。

[テーマ]

Terraced landscapeは、実際のところ、危機的状況に置かれている。作業効率の向上を目指す企業モデルの面からも、耕作放棄に対する無気力の面からも。しかしヨーロッパでは、農業と社会の革新という興味深い経験があることを忘れてはいけない。つまり伝統と近代化、受け継いだ遺産と新しい生産機能など、融合する能力である。

どのような革新のプロセスが博物館的機能への変換や、環境や文化の融合を疲弊させる改悪なしに、terraced landscapeの遺産を再構築できるだろうか？どのような新しい農業の形、管理や協働の革新的なシステム、作業の技術が、将来に向けた修復と再生のプロジェクトを生じさせるだろうか？

4. 食べ物の質と人生の質 (Valpolicella e Colline di Valdobbiadene)

[場所]

この場所では、先史時代から石を用いて頑丈な都市を築いてきた。中世以降、人々は農地を広げるために広い斜面に段をつくり、この2世紀の間にそれはより進んだ。

今日、テラス状のワイン用ブドウ畑は、Valpolicellaにおいてより普及し、評価の高い農業システムである。この土地における原動力は、他の土地で主流である疎放化

や放棄ではなく、有名で世界中に輸出もしているワイン生産と結びついた価値化である。Treviso 県のValdobbiadeneの丘陵も1800年代までさかのぼるワイン用ブドウ栽培で、その段状の風景が特徴であり、Valpolicellaと似ている状況にある。

[テーマ]

商業的ワイン用ブドウ栽培とオリーブ栽培は、もともと地中海地方の偉大な段状の農地システムの主要な一翼を担ってきた。今日、イタリアやヨーロッパにおいて段状の土地でつくられるオリーブやワインは、製品の質と風景の質をとくに請け負っている。しかし段状農地は他の質の良い食べ物を作り続けることも可能である。

食べ物の質とterraced landscapeの質にはどのような関係があるか？この関係はマーケティング戦略や作業の可視化にどう結び付けることができるのか？もしくはより高い暮らしの質という理想に向けて、どう商業を超えていくことができるのか？今日の認証制度は、食べ物の質と風景の質を結びつけることができるのか？持続可能性、倫理、食べ物の質の名のもとに、どのような活動が風景を再生できるのだろうか？

5. 規則と政策 (Trentino)

[場所]

Trento県の山奥の地では、昔から斜面に張り付いた耕地の様相を呈している。今でも耕作を続けているところもあれば、放棄の進む場所もある。Trento自治県はこの数年、数々のterraced landscapeの保護の方針、方法論、財政的支援策を打ち出している。最近では、新しい農村発展計画の中に位置づけ、強化している。

持続的発展基金 (Fondo di Sviluppo Sostenibile) の支援により、たくさんの保存と価値化のプロジェクトが実現している。Cembra谷はイタリアの歴史的農村風景に登録された。そのほか複数の谷がterraced landscapeの修復と放棄地の復元に対し条例公布やプロジェクトを行っている。

[テーマ]

Terraced landscapeは多くの場合、遅れた農業を行っている場所であり、農村発展の計画でもあまり支援されていない。法律の制定は、受け継がれてきた風景を、システムの運営、生産者のいる生産の視点からみれば、中断させてしまうこともある。基礎自治体の規則、県や州の都市計画、共通農業政策における農村発展計画などでは、これらの風景をその目的に掲げるようになった。

たとえばどのような規則がterraced landscapeのシステムに配慮したものといえるのだろうか？どのような規則が風景を活かすことになるのか？どのような政策が風景の保存と生産機能を維持することに貢献するのだろうか？

6. 空石積みの施工と維持の技術 (Ossola)

[場所]

Ossola谷は、石灰の不足と19世紀末までの木材の使用の制限によって、石の使用が優勢であった。そのため、地方のインフラや農作業小屋、家などがほぼすべて空石積みでつくられていた。技術上の制限から、壁の高さは6m、塔は14mなどの制約があった。

さらに、何千もの乾燥システムやワインの保管庫を兼ねた石の地下室が現存している。これらのossolaの複合システムが現れた風景は、今、元気に発酵しつつある。地域のいくつものプロジェクトが、ヨーロッパや世界の活動と交流し、それが地域に良い影響を与えている。

[テーマ]

山の風景が変化した要因のひとつに、第二次世界大戦以降、石を積む技術、維持管理する技術が喪失したことが挙げられる。この数年は、技術の記述や空石積みを学ぶたくさんのコースが開催されるなど、明るい兆しも見えている。

どのような規則が空石積みの方向性を決めるのか？どのような方法で受け継がれてきた知恵を継承し、要求され評価される専門的能力にすることができるのか？伝統的な構築技術に対し、どのような手段でそれを発展させることができるのか？どのような研究が貢献できるのか？terraced landscapeの修復に貢献する石積み技術を学ぶ機会は、どのような結果をもたらしたのか？

7. 風景と観光 (Alto Canavese-Valle D'Aosta)

[場所]

アルプスの山々にある場所である。そのterraced landscapeは見るとは、歴史文化的価値や経済の重要性や好ましいこの地の気候に気づき、圧倒される。中世以来、人々はこの地の農業やブドウ栽培を展開するために土地を開拓する方法を知っていた。この地の農業環境の特別な特徴は、風の通り道の役割もあり、これがこの土地の風景の良く知られ、称賛される魅力になっている。

[テーマ]

斜面地における観光は、エノガストロミア（ワインとその土地の食事）だけでなく、コースの設定によってはterraced landscapeの価値化と保存のカギになる。いくつかの文脈では、あからさまだったりその危機から背負うものが大きすぎて、それらのつながりは固まりすぎたものとして現れる。あるいはそのコースが広範囲すぎることもある。

Terraced landscapeは、観光的に価値づけしプロモーションしていくために、どのような役割を演じるべきか？どこがこのような総合的なプロデュースで成功しているのか？あるいはどこがこれらの遺産を継承していくのにあまり悪いインパクトのリスクを冒しているのか？観光地化して犯しやすい間違いを避けながらも、観光とterraced landscapeの文脈に沿った活動の両立を図る方法はどうい

ったものだろうか？

8. 環境と土砂災害のリスク (Chiavari-Lavagna-Vemazza)

[場所]

何世紀にもわたって海岸沿いにterraced landscapeが構築されてきた場所である。石を積む技術によって、水や風を弱め、自然の浸食作用を減じてきた。

Lavagnaはまだマーケットとしては田舎の農業であるが、Chiavariはいくつかの歴史的な丘陵農地を保存しつつ、農村から都市へと変化した。Vemazzaは少なくとも19世紀の終わりまでには海岸沿いの「縁」を使いつくしてワイン用ブドウを栽培し、地域の経済を確立させた。

労働力の不足と農業の縮小によってterraced landscapeの保護は著しくおろそかになった。近年、私たちの土地を襲った洪水の悲劇は、その主要な要因は耕作放棄され、空石積みの畑の管理がおろそかになっていたことであるとの調査結果が出ている。

[テーマ]

Terraced landscapeの斜面の放棄は、地政学的、気候的、構造的な様々な危険な状況をしばしば発生させる。空石積みのたった1か所の崩落が、全体にまで及び、時には斜面の広い範囲にまで及ぶことがある。リスクの度合いは、状況によってさまざまである。

空石積みの強度を評価すること、変数を得ること、放棄されているか利用されているかでリスクが違ふことの評価などは可能なのか？段の畑ごとに異なる状況を把握しながら、斜面のどこにリスクがあるのかを表す防災計画はどのように立てられるのか？管理放棄の流れの中でリスクをコントロールするにはどのような活動から始めればよいのか？terraced landscapeのそばの住民の立場からすれば、どのようにリスクを知ることが出来るのか、どのような保全の訓練や農業活動をすればそのリスクを減らすことが出来るのか？

9. 歴史遺産と歴史的農村景観 (Ischia e Costiera Amalfitana)

[場所]

Amalfi海岸とIschia島のterraced landscapeは風景の主役である。海と山との間に蛇行するように存在する農地は、この土地の魅力となっている。最大の特徴は、荒々しい急勾配の壁のような岩肌と後ろの山で、その中で昔から人々は幸せと海の幸を求めて住み着いた。

ほんの少しの利用できる土地は、人々がまるで自然と戦うかのごとく獲得した農地である。1997年からこの多様な文化が入り混じった地中海の風景はユネスコの世界文化遺産に登録されている。

[テーマ]

ヨーロッパでは、ユネスコがterraced landscapeを世界遺産にして以降、たくさんのterraced landscapeが遺産として考えられ認証が与えられている。それらが遺産に名を連

ねると同じだけ、より広い範囲の研究すべき点が降りかかっている。

どのような措置をとれば、遺産になったことによってそこでの農産物の価値を向上させることができるのだろうか？これらの遺産化を進める農業者や地元の人々はどのような意見を持っているのだろうか？これらの認証は風景や地域、社会文化にどのような変化をもたらすのだろうか？今イタリア政府が進めている「歴史的農村景観登録制度」は、terraced landscapeに関してどのような力を持つのだろうか？

10. 水の確保とレジリエンス、乾燥地帯の農業 (Pantelleria)

[場所]

Pantelleriaのterraced landscapeは島特有の特徴を持っている。強い風と高い気温、乾燥した空気という気象条件のもと、ここでのterraced landscapeは、単に植物を植える平地をつくるためのものというだけでなく、主要な目的は周囲の湿気を奪い取ることと塩分を含んだ風から守ることである。

この条件がこの地で独特の技術を生み、また農業の側面ではワインとケーパーが特産となった。また、terraced landscapeは持続可能性と同義であり、気候変動との格闘、抵抗、回復および人間の支配を許さない土地の研究である。

[テーマ]

乾燥した地帯では水の確保が最も重視すべき機能となる。地中海のterraced landscapeでは、しばしば乾燥によって耕作が不可能だったり栽培するものが制限されたりする。そして固有の作物や農法を選択することになる。

どのように水を得る方法が、今日、持続可能な農業のモデルとして考えられているのか？気候変動によって気候が変わっていく土地において、水の確保としてふさわしい方法はどのようなものなのか？水資源を守り、正しい使い方を進めていくために、どのような戦略があるのか？

4. まとめ

以上、第3回Terraced Landscape国際会議について、開催前の状況を整理した。このほかの準備状況としては2015年5月に関係者がミラノの北70kmほどのところにあるChiavennaに集合し、第1回の準備回を行った。6月にはシンポジウムを行うなど、1年以上前から準備を始めている。また、その後もエクスカーション付きの会議をたびたび行い、また先述の各テーマ地のビデオを作成するなどしている。国際会議の運営を円滑に行うためというよりは、国際会議の開催を契機に、イタリア国内での

terraced landscapeに関する研究および取り組みを活発化させ、また関係者のネットワークづくりをしようとしているように感じられる。すでに行われていたALPTERの取り組みや10のテーマを見てもわかるが、研究者や活動者の層が厚いこと、またベースとなる学問範囲も建築や塵をベースとするランドスケープだけでなく、そのもとになる地質や気候、水などの分野、さらに農業、経済などの農地の利用に関係する分野など、多岐にわたることが見て取れる。

各地のテーマ設定も、その学問分野の広さを反映しているといえよう。さらに、説明文からは、下記のことが理解できる。

- ・これまでのterraced landscape国際会議が、どちらかというterraced landscapeの機能を明示し、保存政策に結び付けたいという傾向があったのに対し、イタリアでのテーマ設定は、いかにシステムを維持しながら活用し保存するかという、生きた保存を目指しているといえる。
- ・つまり、terraced landscapeの保全は農業活動という根源的な利用のシステムを抜きにしては考えられないという意識がある。観光や遺産化などのテーマでも、それが農業を続けるためにどのように役に立つのかについて考えようとし、あるいは観光や遺産化によって価値が変わり農業がしにくくなってしまふことについて危惧している。
- ・農業を続けていくにあたっては、単に経済的に成功すれば良いと考えているのではなく、持続可能な農業を行うことが前提となっている。この理由は、ひとつにはALPTERプロジェクトでも表明されているように、イタリアのterraced landscape研究者の間では、terraced landscapeがもともと持続可能な農業の形をわかりやすい形で表していると考えられていることがあるといえよう。さらに、ヨーロッパの農業政策を方向付ける共通農業政策においてもそれが前提とされているという近年の状況もより広いバックグラウンドとしては存在していると考えられる。

参考文献

- 1) http://www.condesan.org/terrazas/sites/default/files/call_for_second_international_congress_on_terraced_landscapes_21.03.pdf
- 2) <http://www.terracedlandscapes2016.it/>
- 3) <http://www.ramsar.org/news/first-world-conference-on-terraced-landscapes-mengzi-china>
- 4) http://www.alpter.net/IMG/pdf/Second_World_Conference_in_Peru_in_May_2014-2.pdf
- 5) Gulielmo Scaramellini, Mauro Varotto; Terraced landscapes of the Alps, Marsilio, 2008